

[特集]

中高一貫教育、本格スタートへ

町立4中学校と広尾高等学校
による「広尾地区・連携型中
高一貫教育」が、この4月か
ら本格的にスタートしました。
中高一貫教育は、中学校と高
等学校の6年間で計画的・継
続的な教育指導を行い、ゆと
りある学校生活や豊かな人間
性の育成などを目指す制度で
す。「きめ細やかな学習指導」
を通して、「基礎・基本の確実
な定着」をはかっていくこと
が導入のねらいです。



野塚中学校



音調津中学校



広尾高等学校



広尾中学校



豊似中学校

■広尾の子どもは広尾で育てる

中高一貫教育制度は、学校教育法の改正によって、これまでの中学校3年間と高等学校3年間を接続し、中高一貫教育6年間も選択できるようにすることで、中等教育（中学校・高等学校）の一層の連携を推進するものです。

本町における中高一貫教育導入に至るまでの経過は、平成15年に中学校、高等学校、教育委員会の三者により「広尾町中高一貫教育研究推進連絡会議」を立ち上げ、実務担当者による道内先進地への学校視察や各種フォーラムへの参加など、中高一貫教育の研究調査をすすめてきました。これら活動の報告書が教育委員会に提出され、これを受け教育委員会としてあらゆる視点から検討を行った結果、本町において「中高一貫教育」導入を決定したところです。

一昨年9月には、「広尾町中高一貫教育推進準備会議」が設置され、研究校指定を受けるべく準備を進め、昨年4月1日に文部科学省より、広尾高等学校と町立4中学校

（広尾中学校・豊似中学校・野塚中学校・音調津中学校）が「中高一貫教育改善充実研究校」に指定されました。同年5月には、「広尾町中高一貫教育連絡協議会」が発足し、これまで推進委員会を中心に、4分掌部会と9教科部会を設置して、具体的な実践内容について重ねて検討してきました。

これら、検討成果を踏まえ、今年4月から「広尾地区・連携型中高一貫教育」が本格的にスタートしました。

中高一貫教育を行うことにより、基礎・基本学習などを着実に習得させ、生徒一人ひとりの良さや可能性を生かした指導や中学校と高等学校の教師の専門性を生かしての、より深い内容の授業も可能になります。部活動や特別活動では、異年齢集団による活動を通して社会性や豊かな人間性を育成することを目指します。

このようなことから、次の4つの意義・利点を掲げていきます。

1 中学校と高等学校の6年間を接続することで、

2 継続性ある教育指導
6年間の計画的・継続的な教育指導を展開することができる。

3 伸ばせる個性・才能
6年間にわたり生徒を把握することができ、個性の伸長や優れた才能を発見できる。

4 豊かな人間性の育成
学年の異なる生徒同士が共通の活動を通し、社会性や豊かな人間性を育成できる。

「中高一貫教育」を成功させるためには、子どもたちのために地域に根ざした「魅力ある中学校教育・高等学校教育」をつくることが必要で、「広尾の子どもは広尾で育てる」を基本に、子どもたちの将来像を見据えた特色ある教育活動を行う「連携型・中高一貫教育」を推進していきます。

1なぜ、中高一貫教育を導入するのですか？

中学生や高校生の時期は、能力・適性・興味・関心・進路希望などが分化していきます。そこで、ゆとりある学校生活のなかで、6年間の計画的、継続的な教育を行う仕組みを整え、より生徒の個性を伸ばすことができるからです。また、6年間を見通した特色ある教科・科目を開設して、魅力ある学校づくりや、その地域に根ざした学校を目指します。



中学校でのチーム・ティーチング授業

2中高一貫教育制度の導入のねらいは何ですか？

広尾町中高一貫教育の実践の柱は、「基礎・基本の確実な定着」です。基礎・基

本の確実な定着を図るためには各教科担任の指導力向上はもとより、授業の工夫・改善・家庭学習の充実など、組織的で効果的な取り組みが求められています。基礎・基本の定着は、小学校（幼稚園・保育所）からの一貫性や積み重ねがあつてはじめて成果が上がります。そのためには、小学校、中学校、高等学校が基礎・基本の確実な定着を図るためにそれぞれが発達段階に応じた学習内容を編成し、最大限の教育効果を上げるため、創意工夫に満ちた学習指導を推進していく必要があります。そうした中で小・中・高が情報交換を密にし、より地域や関係機関との連携強化を図り、多様な能力や適性を持つ広尾の子どもたち一人ひとりに応じた「きめ細かな学習指導」を通して「基礎・基本の確実な定着」を図っていくことが広尾町中高一貫教育導入のねらいです。

3広尾地区で導入する連携型中高一貫教育とはどのようなものですか？

(1)基本理念・テーマ・柱

○基本理念

郷土広尾を愛し、心豊かに学び、新世紀をたくましく、主体的に生きる人を育てる

「地域の教育力を結集し、広尾の子どもは広尾で育てる」

○テーマ

基礎・基本の確実な定着と個に応じた指導

○連携の柱

基礎的な学習を身につけ、個々の調和のある資質・能力を高めるための連携・継続

豊かな人間性や社会性を育む諸活動の連携・接続

地域に学び、自己を見つめる、総合的な学習の時間における連携・接続

(2)目指す生徒像

「確かな学力」を身につけ、自ら学び、自ら考える生徒

豊かな人間性や社会性を育み、自己実現に努力する生徒

地域に学び、地域に貢献する生徒

(3)具体的には

中高における基礎・基本の定着を目指した学習内容の効果的な接続と連携

相互乗り入れ授業や中学校での個に応じた少人数指導など一貫教育を生かした指導

6年間を見通し、一貫性を持った「総合的な学習の時間」の連携・接続

英語検定・漢字検定など資格取得に向けた中高生の合同演習講習の実施

ボランティア活動や職場体験活動などの効果的な接続や合同参加



部活交流

学校行事や部活動などにおける相互交流や合同開催生徒会の相互交流やリーダー研修会などの開催について、生徒指導関係の定期的協議

中高教科会議、公開授業の実施など中高教員の連携交流

4 高校入試はどのようなになるのですか？

連携型中高一貫教育に関わる選抜（連携型入試）は、平成19年度入学生に対して実施され、19年度入試の正式な要項については平成18年12月ごろに配布します。現時点では中学3年生からこの連携型入試が実施されます。

時期については、平成19年2月中旬で普通科の推薦入試と同じ日に実施する予定です。連携型の入試内容は、学力検査や調査書によることなく、面接やレポートなどを用いた簡便な方法で実施する予定です。一般入試については従来と同じかたちです。

連携型入試は広尾高校と連携をしている広尾地区の広尾・豊似・野塚・音調津の4中学校の生徒が対象となります。広尾高校の推薦入試については、定員は120名で募集定員の30%程度です。

5 連携している中学校の生徒はほかの高校に行けないのですか？

北海道立高等学校通学区

域規則に準じて、いままでどおりどの高校に行くことも自由です。

6 連携している中学校の生徒が他の高校を受験して不合格になった後も、広尾高校を受験できますか？

もちろんできます。例えば推薦入試で他校を受験した生徒が不合格になった後に、本校を一般受験することとは可能です。

7 入試がなくなると、生徒が勉強しなくなるのではないですか？

よく聞かれる質問だと思います。問題は学力をどう考えるかだと思います。

詰め込み式の暗記学習によつて得られた学力は、課題を自分で見つけ、自ら取り組む学習とは異なります。基礎基本を徹底的に学ぶことによつて、「自ら勉強する力」「学び方を学ぶ力」が身に付くと思うのです。それが一貫の理念である「主体的に生きる人」を生み出すのです。

広尾地区でも中学校と高等学校を接続することにより、子どものトータルな学

力を6年間によつて培うことができようになります。逆に連携型入試（面接やレポートなど）のために準備しなければならぬことも出てきます。



高校理科教員による中学校への出前授業

8 具体的に広尾高校において、どのような教育活動が可能ですか？

17年度に試行として取り組まれた、連携授業、部活動交流、その他の交流（学校行事など）がさらに発展した形で行われます。

それ以外に

・2年次より共通選択とA・Bの2コース制をとり、コース制の中にも更に幅広い選択肢が設けられ、個々の進路の希望にあった教科選択ができます。



高校での公開授業

・学校設定科目の開設で幅の広い授業が受けられます。現在開講している国語一般、オフィスオートメーションのほかには数学課題探究、数学研究、自然科学入門、演奏に親しむ、英語構文など新しい講座を開講します。

・公開授業や研究授業による中高の相互の教員の交流によつて質の高い授業が展開されます。

・各中学校へ出向き出前授業を実施したり、選択授業でのチーム・チーティング授業（1つの授業に複数の教師がたずさわる授業）を通して中学生の学力向上に貢献することができます。